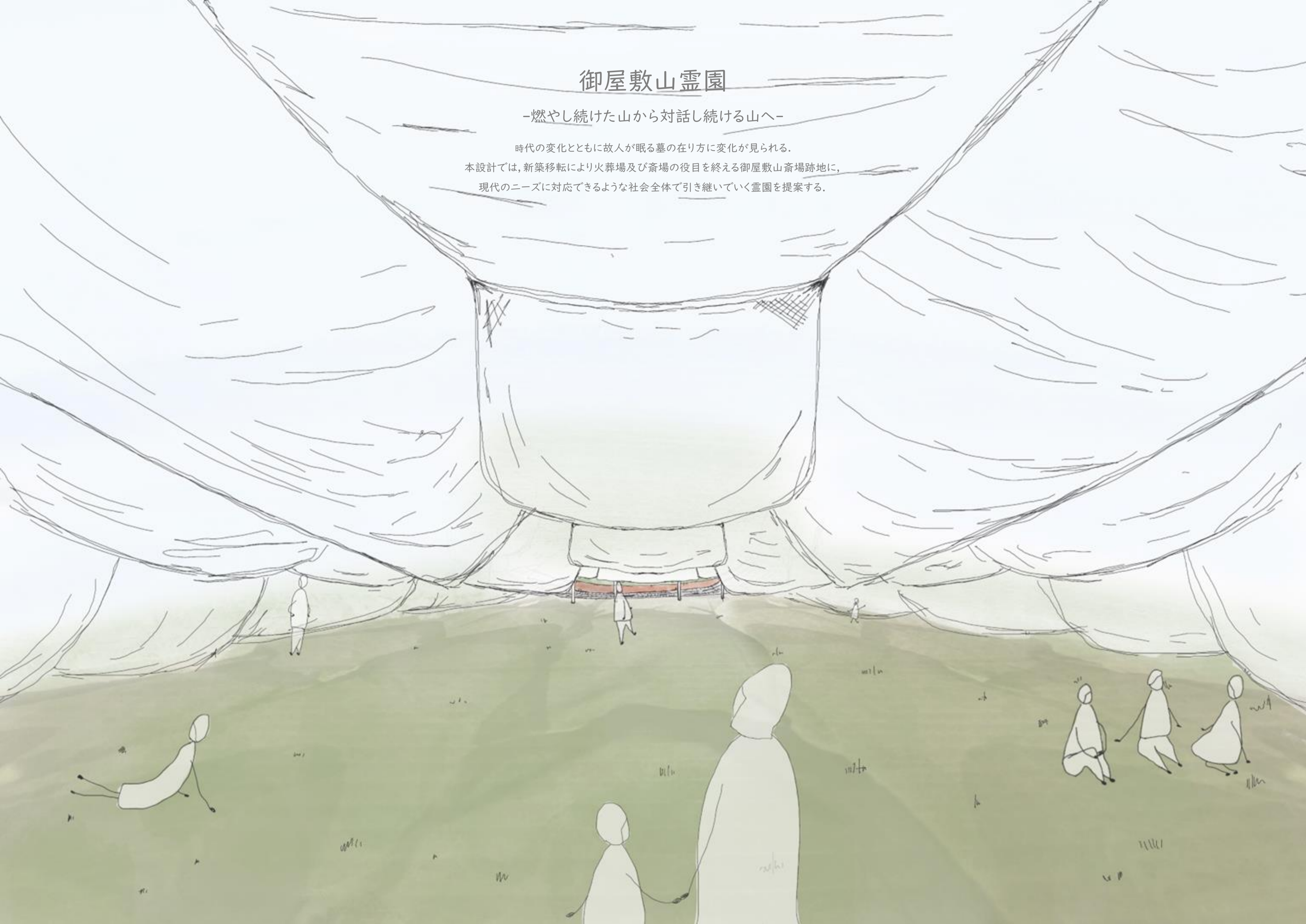


御屋敷山霊園

-燃やし続けた山から対話し続ける山へ-

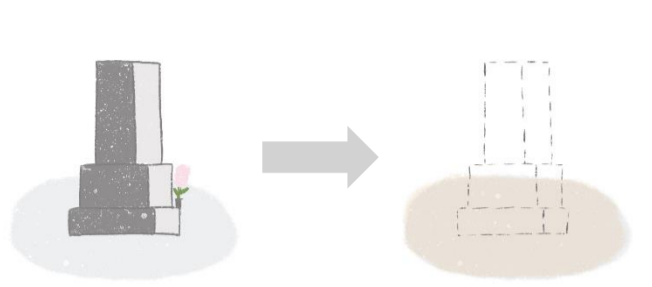
時代の変化とともに故人が眠る墓の在り方に変化が見られる。

本設計では、新築移転により火葬場及び斎場の役目を終える御屋敷山斎場跡地に、
現代のニーズに対応できるような社会全体で引き継いでいく霊園を提案する。



01 Background -1 墓の在り方

手入れ困難や後継ぎがないことから、
改装や墓じまいを行う人が年々増加している。



従来の一般墓から維持管理の手軽さや宗教の制約が少ない
樹木葬や海洋葬、バルーン葬、納骨堂などの需要が高まっている。



価値観や死生観の多様化を背景に、墓の在り方は変化している

03 Proposal

現在の御屋敷山斎場は、火葬棟と斎場棟、待合棟の3棟からなる。
このうち前面に位置する待合棟を残す。

- 本設計も、3つのゾーンで計画を行う。
1. 故人の眠る墓
 2. 墓と建物のアプローチ
 3. 日常と霊園をつなぐ役割を持つ建物

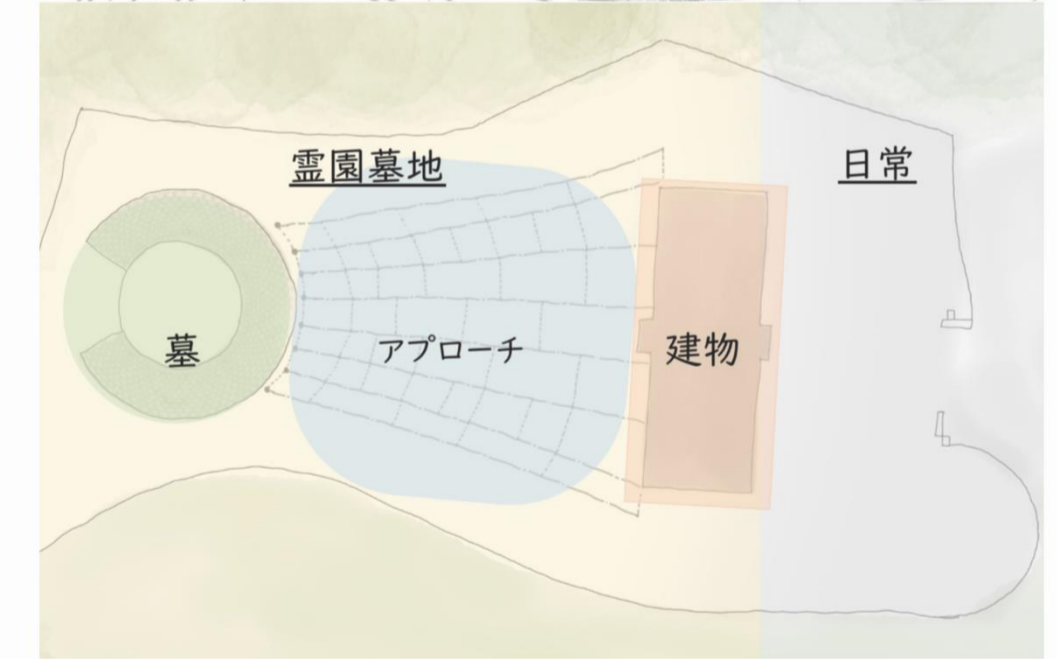
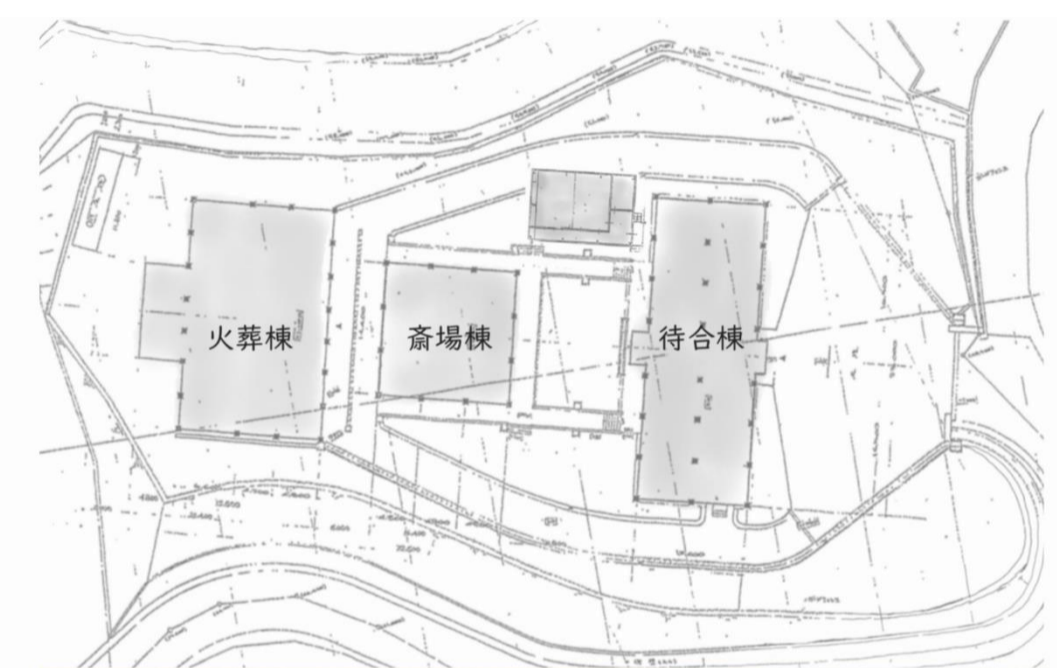
この領域を通して、墓参りを行う。
墓参りは、過去と現在、そして未来へつながる行為である。

01 Background -2 御屋敷山斎場新築移転

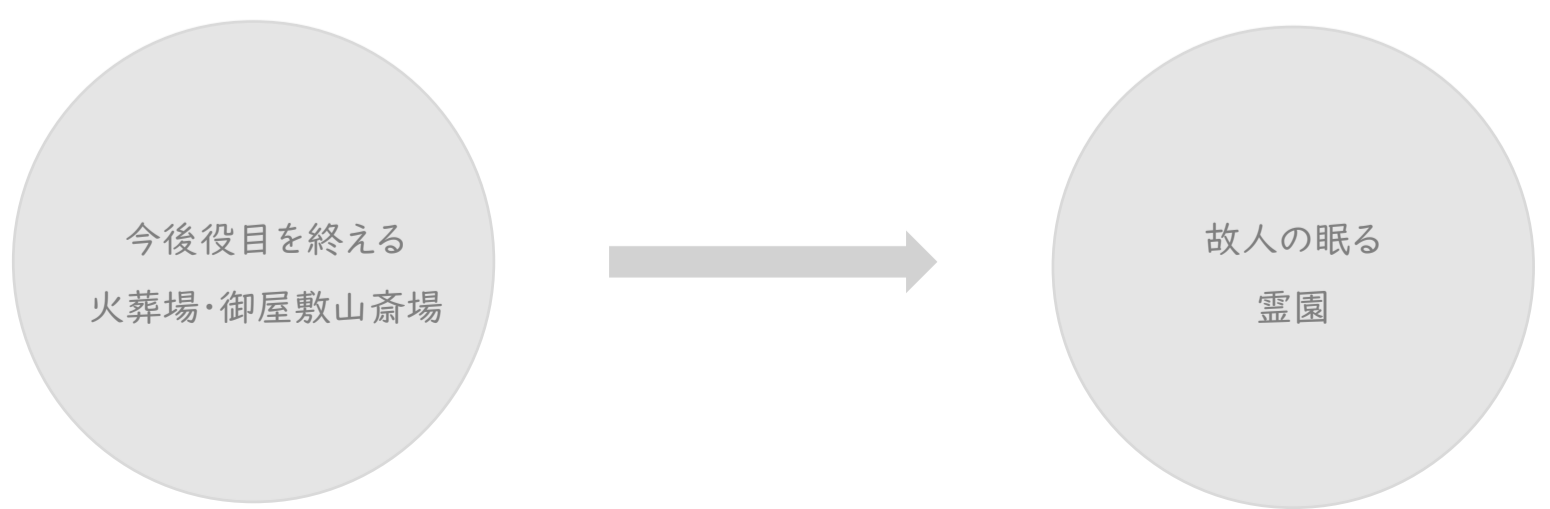


山口県下松市。
火葬場の施設を持つ、御屋敷山斎場がある。
昭和46年6月に竣工し、51年間利用されてきた。
設備の老朽化や利用者のニーズの変化、今後の利用増加が考えられることから、
2025年に新斎場を新築移転することが決定した。

この御屋敷山は施設がなくなっても、
「ご遺体を燃やし続けてきた山」というイメージが染み付いている。
人は斎場や火葬場に故人が宿っているような独特な空気感や特別感を感じる。

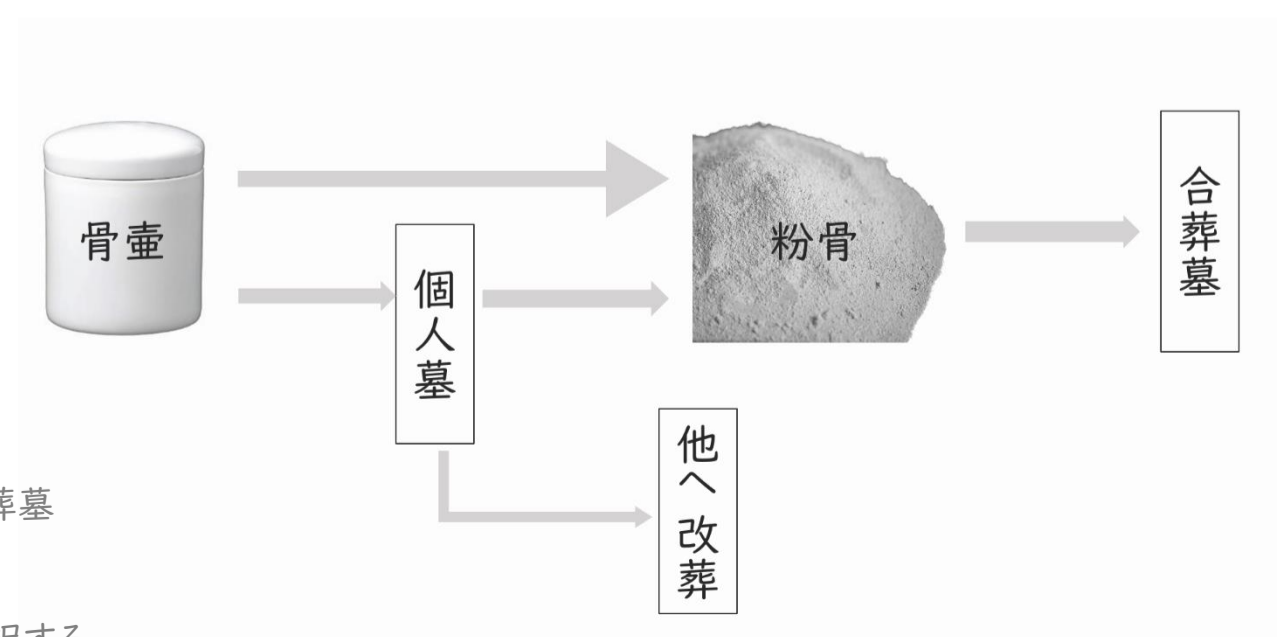


02 Proposal 生まれ変わる山



2つの形態を採用

- ① 遺骨を骨壺のまま区画された
エリアへ納骨する個人墓
(保管期間を10年・20年とし、
期間終了後に②もしくは
他の墓へ改装を行う)
- ② 遺骨を骨壺から取り出し粉骨、
多くの人が眠るエリアへ納骨する合葬墓



利用者のニーズに合わせて、2つから選択する

Layout & plan view

浄蓮寺墓苑

東光寺分水工

第二駐車場

国道188号

平面構成

【a. 管理棟】

- 1: はじまりの間
- 2: 待合室
- 3: パントリー
- 4: 多目的トイレ
- 5: 男子トイレ
- 6: 女子トイレ
- 7: 応接室
- 8: 受付
- 9: 書庫
- 10: スタッフルーム
- 11: 男子トイレ
- 12: 女子トイレ
- 13: 倉庫
- 14: 廊下

【b. つむぎ】

【c. 墳墓】

霊園 職員構成

- 墓園長 1名
- 事務員 2名
- 植栽メンテナンス 1名 計4名



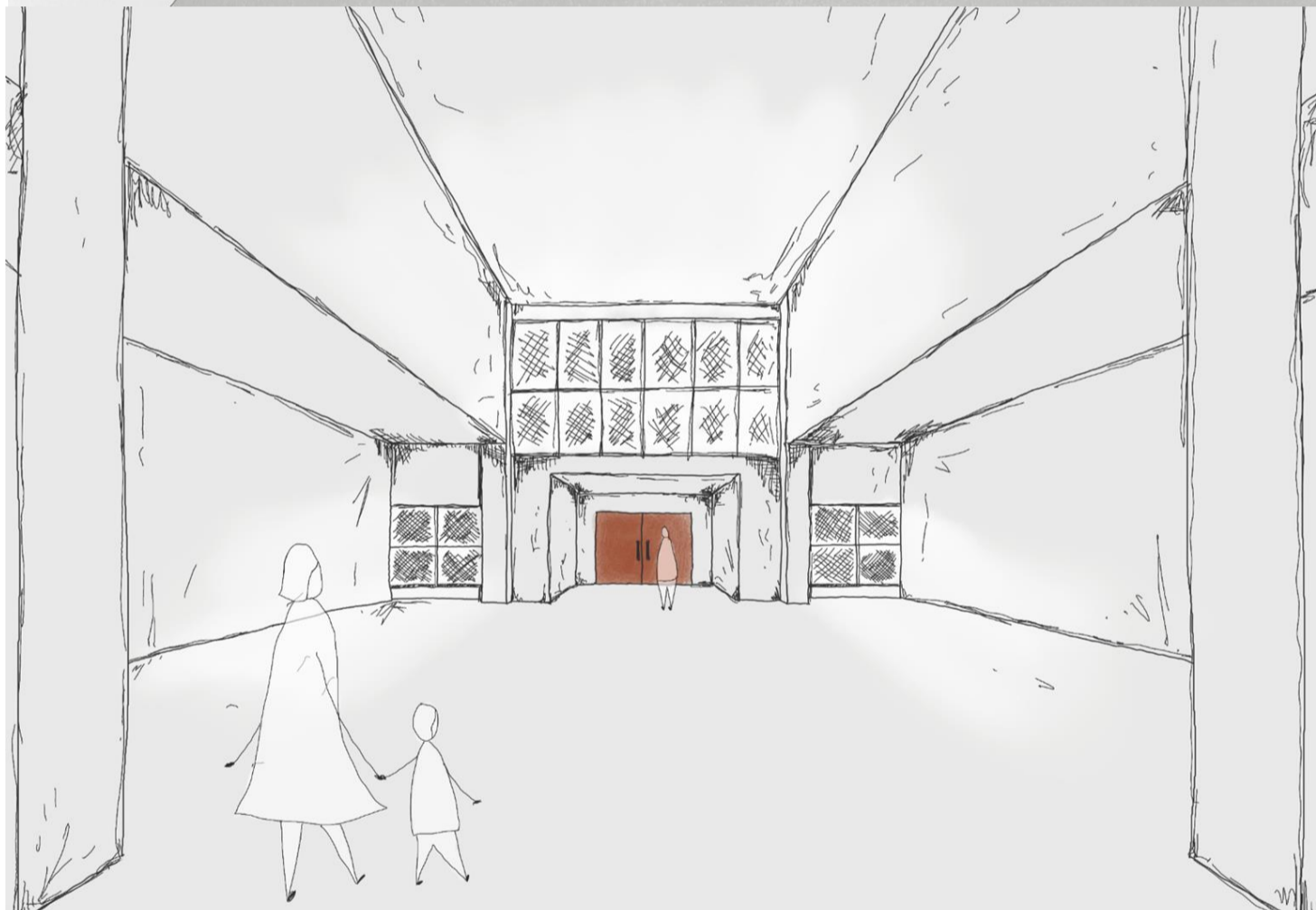
墓参りへ

日常と霊園をつなぐ門構え
人々を出迎える



はじまりの間

奥の光がすりガラス越しに広がる
誘われるように歩みを進める
重厚感のある同の扉を
押し開ける



つむぎ

上部につるされた布
太陽の光や風が吹くたび
布や影が
踊るように揺れ動く



墳墓

故人が眠る
花を添え
手を合わせる



つむぎ

墳墓へ向かうときには見えなかった、空が垣間見える
好きな場所で、思い思いに過ごす
いろいろな感情が交差し、この場所つむがれていく

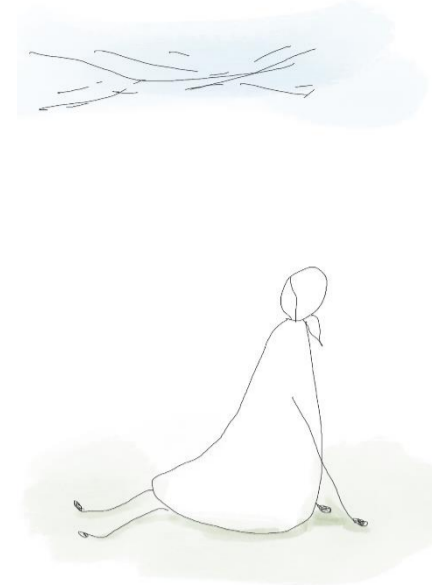




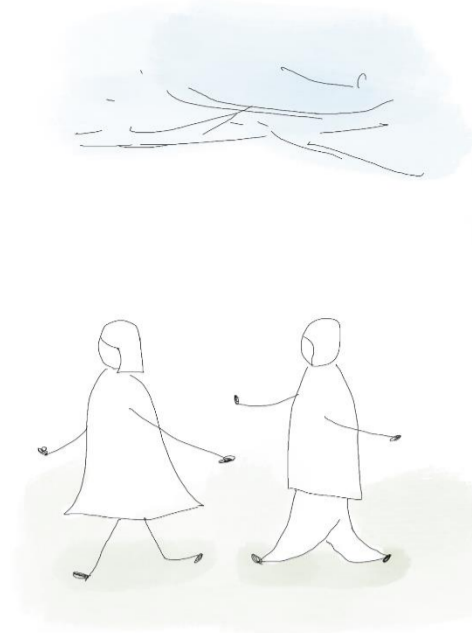
ぼつぼつあるく



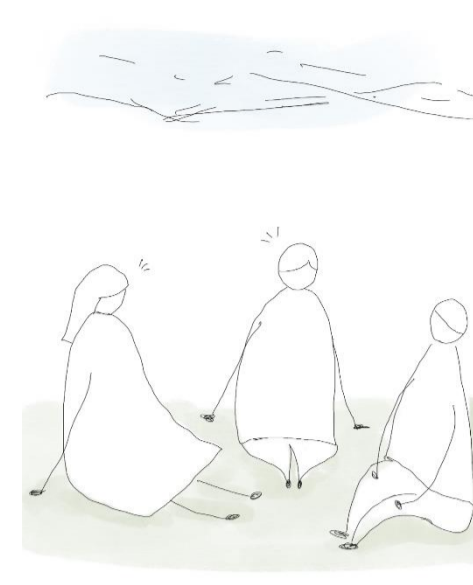
布に触れてみる



こしをかける



いっしょに

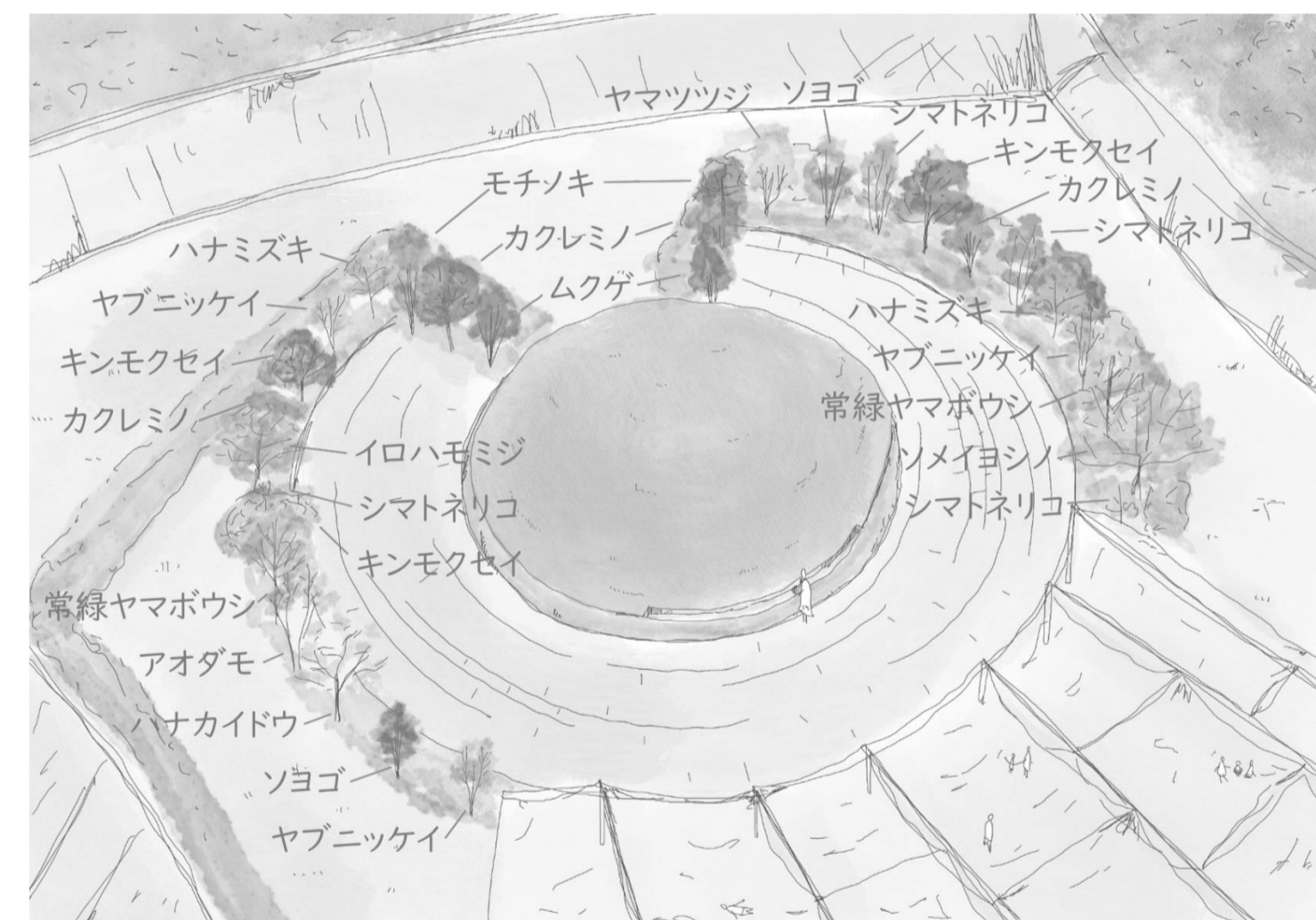


語らう



ねそべり見上げる

05 Planting plan 植栽計画

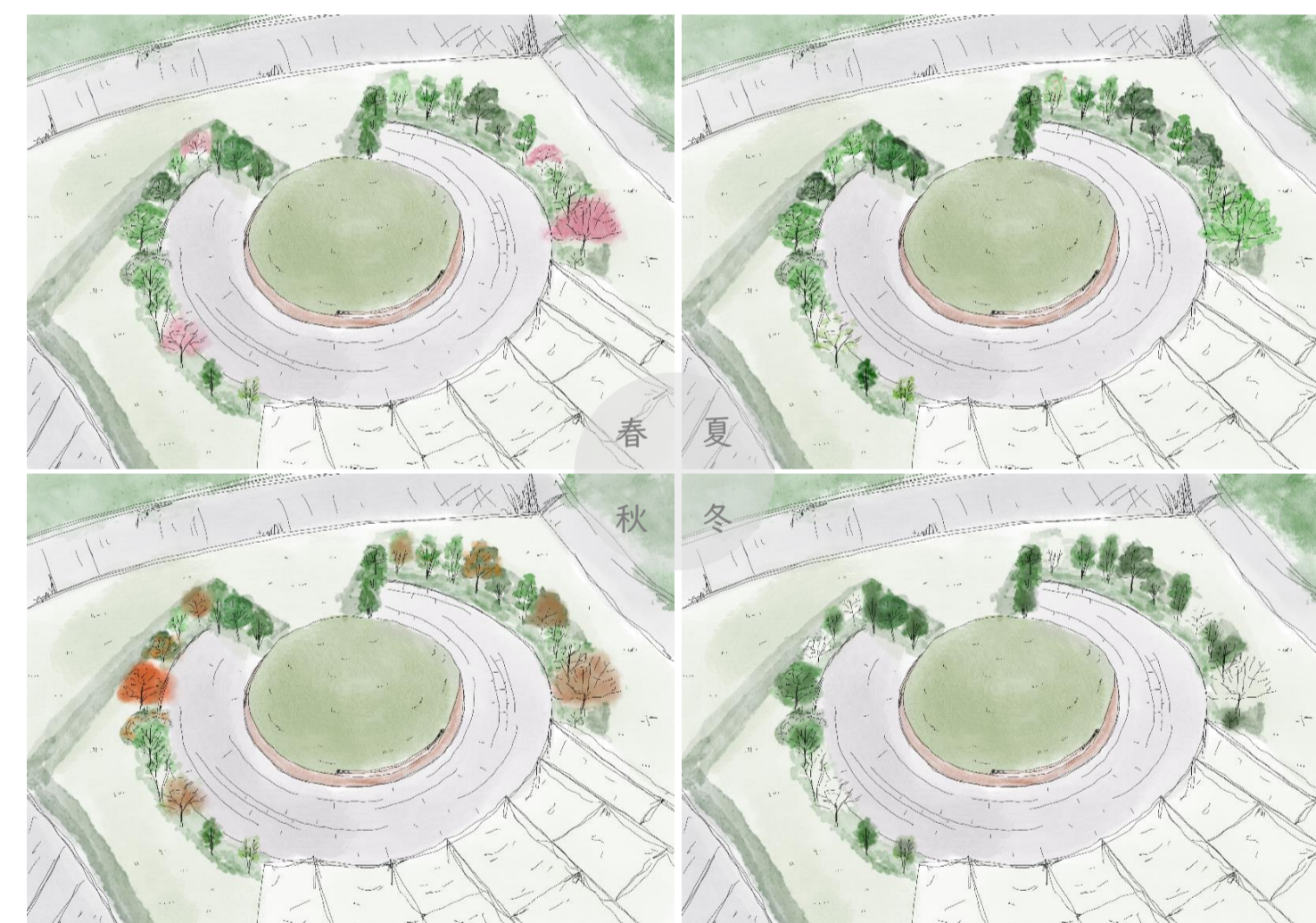


墳墓を囲む樹木

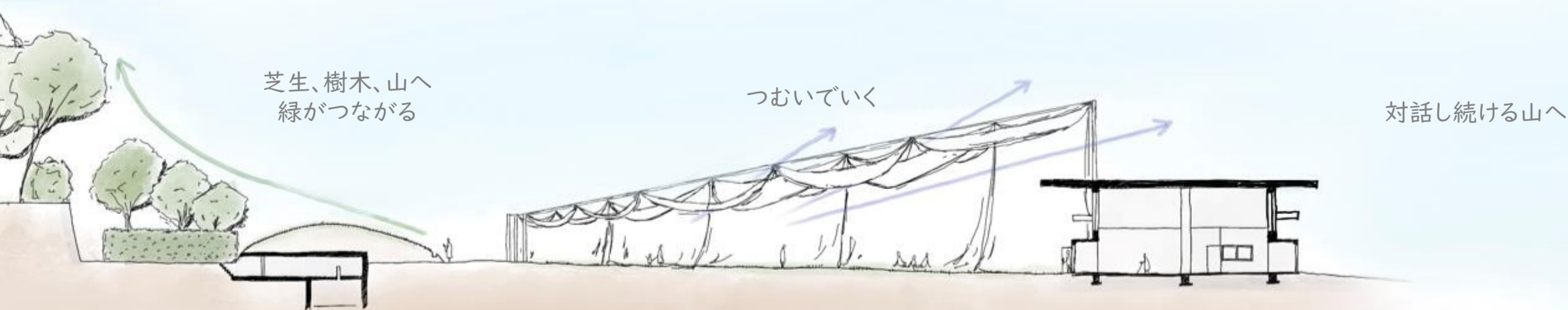
春、夏、秋、冬
四季折々

霊園を訪れるたび、新しい表情に出会える

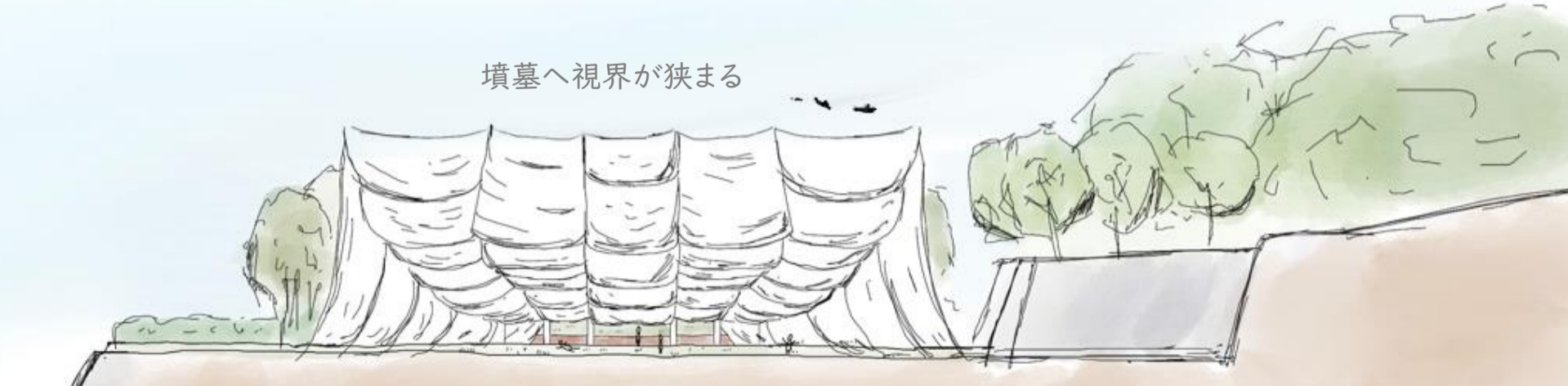
緑に囲まれ
故人は、安らかに眠る



06 Sectional view 断面図



A-A



B-B